

る。大津市石山平津町にてヒノキ植林内で採つた。

64) チャヌメリカラカサタケ (新称)。傘はクリ褐色、粘性；茎は繊維状——綿毛状、乾性；内被膜はクモの巣状；肉には強い粉臭がある。京都大学植物園で採つた。

65) ザラエノハラタケ (新称)。傘の表面は帯紫褐色の鱗被におおわれ、又茎のツバより下部は綿毛状——繊維状をなす点が著しい特徴である。滋賀県瀬田町のアカマツ林及び大津市石山平津町の竹林内で採つた。

66) オオナヨタケ (新称)。傘の表面に長さ 60-300  $\mu$  の暗褐色、厚膜の剛毛が散在する点で近縁種と異なっている。滋賀県醒井村、養鱒場内で採つた。

67) フタツミウラベニタケ (新種)。小形。傘の表面は淡黄褐色を帯びる。担子柄は 2 胞子を着ける。大津市石山平津町のヒノキ植林内、腐植土上又は朽株上に 5 月頃発生する。

68) シバフウラベニタケ (新種)。小形。傘の表面は帯黄肉色、中央はくぼみ小鱗被を有する。茎は殆んど白色。7 月頃、大津市田上黒津町、遊園地の芝生上に発生する。

69) ニオイワチチタケ (新種)。傘の表面には非常に明瞭な環紋があり、肉にはカレー粉乃至はトウキ (当帰) 様の香りがあるが乾燥すれば更に強烈となる。乳液は白味を帯びた水様、不変性、無味。夏秋季、大津市石山平津町のモミの樹下に多数発生する。

# 本誌第 32 巻の正誤 Errata for vol. 32

頁	行	誤	正
82	下カラ 1	塊状組織	塊状組織と類似
128	11	さしたもの	さしてきたもの
〃	13	<i>erythranthus</i>	<i>erythranthus</i>
〃	〃	Ikegai	Ikegami
〃	16	trajecto	trajectu
〃	下から 18	Sirobana	Shirobana
〃	下から 3	Shirakawa	Shirasaka
156	19	<i>falsinervulosmu</i>	<i>falsinervulosum</i>
157	table 1 行目	<i>M. spuronervulosum</i>	<i>M. falsinervulosum</i>
158	12	<i>M. spuronervulosum</i>	<i>M. falsinervulosum</i>
〃	14	<i>M. spuronervulosum</i>	<i>M. falsinervulosum</i>
Plate II の説明 (No. 5 所載)		B: <i>Mindorense</i>	B: <i>M. mindorense</i>